

1 事業評価報告

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 時期	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価		
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
広島市鳥獣被害防止 総合対策協議会	広島市	R2	イノシシ シカ サル ヌートリア タヌキ カワウ	有害捕獲(箱わなの導入)	大型 11基 中型 2基 小型 2基	協議会 地元集落	R3.3	100%	箱わな等の導入を通じた捕獲機材の整備により、捕獲頭数は増加傾向にある。 また、侵入防止柵(ワイヤーメッシュ柵)を設置した集落では、農作物被害が減少傾向にある。 両取組の継続的な実施により、農作物被害の軽減に一定の効果が見られている。	イノシシ	18,045	22,299	-423%	12.02	10.31	292%	サルについては、被害金額、被害面積ともに目標を達成した。その要因として、動物駆逐用煙火等による追い払いに加え、大型捕獲柵による群れ単位での捕獲による効果が現れたと考えられる。 一方、イノシシ及びシカについては、生息域の拡大に伴い被害も増加傾向にあることから、引き続き、防除、駆除及び環境整備の3本柱で鳥獣被害対策を推進するとともに、既存の防護柵等の適切な維持管理や適切な防除方法の啓発に取り組む必要がある。	
				有害捕獲(箱わなの導入)	大型 12基 中型 2基 小型 1基	協議会 地元集落	R4.3	100%		シカ	15,435	17,094	-138%	8.08	6.60	347%		
		R3		有害捕獲(箱わなの導入)	大型 12基 中型 2基 小型 1基	協議会 地元集落	R4.3	100%		サル	3,991	2,097	1152%	1.34	0.81	630%		
				有害捕獲(箱わなの導入)	大型 16基 小型 1基	協議会 地元集落	R5.3	100%		ヌートリア	355	402	-194%	0.18	0.17	200%		
		R4									タヌキ	429	1,787	-7047%	0.21	0.27		-500%
											カワウ	28,000	21,000	188%	-	-		-
												66,255	64,679	116%	21.83	18.16		328%

注1)被害金額及び被害面積の目標欄については、対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載してください。
注2)達成率の算出方法については「実績値(＝基準年値－実績値)／目標値(＝基準年値－目標値)」であるとして算出してください。

2 第三者の意見

コメント:広島県クマレンジャー 田公氏
土曜日、日曜日になると、近隣の山から犬たちの元気な鳴き声がよく聞こえてきた日々です。”やってるな”と想いつつ、聞き耳を立てていると、やがて銃の発砲音が・・・犬たちの鳴き声が一段と大きくなり・・・静かになる。”やったな！”「イノシシの駆除。ご苦労さま。」と想い描いたものです。
これは20年前のことです。
地域によっては、こうした犬の鳴き声をほとんど聞くことがなくなりました。狩猟対象の獲物が減ったのでしょうか。いいえ狩猟者の方が減ったのです。こういった狩猟をしようとしても、必要な人数が集まらないのです。高齢化等によるハンター離れに見合う若手の補充が出来ない時代になりました。経験者が減ることによって未経験者養成も困難になります。こういった悪循環により、最早この流れは止められないのでは。
こういった狩猟が行われているときは、たとえ、その日に獲物を得ることができなかったとしても、有害鳥獣たちを農地から、里山から奥山へ追いやる効果はとても大きかったのです。
こういった状況変化の行方を鑑み、これからは、ほかの被害防除の方策により力を注がねばなりません。
大きく分けて次の三策。
ア 捕獲・・・捕獲檻、罠(ワイヤーなど)
イ 防御・・・トタン壁、ワイヤーメッシュ、ネット
ウ 追い払い(おどし)・・・音声、花火、光、超音波の発信

ア 安佐北区久地の稲刈りの済んだ田んぼの真ん中に稲ワラが積んでありました。その稲ワラをはねくり返して食べれる物を漁っているイノシシ1頭。50m向こうの県道では、ひっきりなしに事が往来しています。でも、全く臆することなく、稲ワラに夢中です。イノシシのところから10mの所に納屋があり、更に、50m離れて民家があります。イノシシの死角にあたる方向から、納屋の陰に近づく。気づかれていない。こちらの姿をゆっくり現わす。イノシシはすぐに気づき、しばらく、こちらを見ていたが・・・とくに慌てた様子もなく、山へ帰っていった。距離があれば、”安全”なのである。見通しのきくところでは、敵の近づくのには早く気付くことができるので、安心して行動しているのであろう。箱わななどを設置する際に、とかく物影など、見通しのきかない場所を選びがちだが、必ずしも正解とは言えない。それぞれの地点の環境をよく考えて、対策をとることが大切であろう。
イ 安佐南区の車道に接した農地に、ワイヤーメッシュでセットされている防護柵の高さが250cm。何か特別の目的があるのかは分からないが、少なくとも、シカに対するものであったら、無駄が多い。200cmあればよい。しかも、舗装されている歩道に接しているので、助走してジャンプするシカにとっては、条件が悪い。偶蹄目の硬いシカは舗装面でスリップしやすいので。さらに、ワイヤーメッシュを高く設定すると、重量により倒壊の危険性も増し、人的被害の可能性が心配になる。垂直ジャンプで120cmが可能なイノシシの侵入を70cm巾のみトタンで防げるのは、トタンの向こうの着地点を見せないからである。資材、労力の無駄を少なくする工夫を重ねていきましょう。
ウ 超音波発信による動物の追払い方法の研究が進められています。これは、対象動物によって波長の違い、有効範囲、強さなど、これからの研究結果が期待されます。
☆安佐北区と東区の接点にあたる位置に県緑化センターと広島市森林公園が繋がっています。このため、長者山・藤ヶ丸山々系の両面の広い範囲でイノシシ猟が制限されています。狩猟対象の獲物が逃げ込めば、それを追う猟犬も公園内に突入するからです。
よって、公園を含む広い範囲が野生動物の楽園になっています。ということは、有害鳥獣にとっても、住みやすい”有害鳥獣保護区”になっているのです。
○山際を車で通る特に出会うシカ
○夜中に、団地の民家の庭で植木の葉を食するシカたち。人間と出会っても、すぐには逃げようとしません。
○団地内の雪上に残るイノシシの足跡等々
狩猟圧の無くなった地域の現状です。こういった地域の今後の対策を考えていくことが重要です。

注) 第三者の名前・所属・役職等を記載のこと。